

令和 5 年 12 月 7 日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

議員名 肥後 孝俊

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 5 年 11 月 24 日(金)～26 日(日)

2. 視察内容

第 4 回 全国未成線・廃線サミット in 高千穂

「鉄道遺産からの挑戦」

鉄道路線として計画されたが未完成のまま中止された未成線跡、利用者の減少や自然災害等で余儀なく営業廃止となった廃線跡、さまざまな可能性に挑戦している各地の事例発表やディスカッション等を通して、全国の未成線・廃線地域の人達と情報を共有し、鉄道遺産有効利用の方策や保存等について共に考える。

3. 視察先

宮崎県西臼杵郡高千穂町 ホテル高千穂 (サミット会場) 25 日 13 時～16 時 30 分

〃 〃 高千穂神社 (夜神楽会場) 25 日 21 時～22 時

〃 〃 高千穂町内 (エクスカーション) 26 日 9 時～12 時

4. 調査経費 37,239 円

経費内訳 : 浜田市 ⇒ 延岡市前泊 ⇒ 高千穂町 ⇒ 浜田市

交通費 (レンタカー、高速、ガソリン) 16,404 円

宿泊費 (駐車料含む) 16,835 円

参加費 (エクスカーション、夜神楽) 4,000 円

5. 調査研究活動の概要

(別紙のとおり)



【高千穂町の概要】

宮崎県の北西部、九州山地の中に位置し、町域の北西部から北部にかけては熊本県に接し、北部から北東部にかけては祖母山（標高 1,756m）を挟んで大分県と接する。町域西部から南東部に向かって五ヶ瀬川（ごかせがわ、全長 106km）が流れる。町の中央部にある宮崎交通高千穂営業所の周辺地域が町の中心部となっている。町中心部からやや南側の高千穂峡（たかちほきょう、正式には五ヶ瀬川渓谷）に代表される豊かな自然環境や神話にゆかりの神社といった観光資源を有する宮崎県内随一の観光地として有名である。

人口:10,789 人(2023. 11. 1) 面積:237.54 m² 町の木:おがたまの木 花:ふじ 鳥:ホオジロ

【第4回 全国未成線・廃線サミット in 高千穂について】

会 場：国民宿舎 ホテル高千穂

参加人数：200 名弱

主 催 者：実行委員会 会長 高千穂町長 甲斐 宗之

プログラム 1：開会式 2：活動事例発表 3：トークイベント 4：大会引継式
5：閉会

1 高千穂線未成線、廃線になった背景とサミット名称について

昭和の国鉄時代に宮崎県延岡市から、高千穂町を経て熊本県高森町まで繋がる九州中部横断鉄道となる予定であったが、国鉄再建法により高千穂・高森間の工事は 70%を残して中断となり高千穂から高森までの間は未成線となった。また高千穂から延岡間は平成 17 年の台風災害により橋梁や駅舎、線路の一部が流失し平成 20 年末に廃線が確定した。全長 50 キロの旧 TR 高千穂鉄道施設があることから新たに「未成線」に「廃線」を加え、「未成線・廃線サミット」とした。（これまでは全国未成線サミット）



サミット開会の挨拶 甲斐高千穂町長



オープニングで壮観劇場として上映（地元ケーブルTV制作）

2 活用・活動事例

●高千穂線跡（未成線地）

延岡と熊本を結ぶ予定であった「九州中部横断鉄道」の名残の、総延長 1115mのトンネルを利用した神楽酒造の焼酎貯蔵庫がある。無料見学で国道 325 号線沿いの高千穂物産館「トンネルの駅」

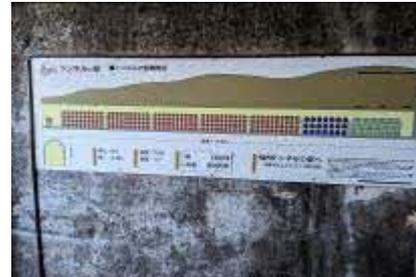


トンネルの駅正面



トンネル焼酎貯蔵庫 温度 17℃・湿度 70%共に安定しており

貯蔵に最適 樽（440ℓ）4 段 1,300 樽 一升瓶換算 18,000 本



（廃線跡地）

もう一度走らせたいという思いで、当初は駅構内にて手押しのカートで運行していたが、少しずつ改良を加え、現在は高千穂町内の鉄道施設跡、片道 2.6Km の軌道上にグランド・スーパーカートという乗り物を運行している。（雨の日はカッパを着て運行、高架橋を走行するため風速基準があり運行中止もある）



グランド・スーパーカート（オープンエア）多くの観光客が見送りしてくれます。（体験乗車賃 1,800 円） 鉄橋で停車。眼下を見渡せます

（その他取組）

- * 高千穂線の歴史を伝える全線再現ジオラマ制作依頼し、2023 年 12 月末資料館を開館予定
- * 安全対策としてカートは、年 4 回（3 ヶ月毎）点検整備、バイオディーゼル燃料で運行（R4.8～）

●とことこトレイン（未成線地） 山口県岩国市

錦川清流線錦町駅から、そう津峡温泉駅までの約 6km を走る観光用の電動トロッコ列車。トンネル内に短大生や地元の小学生・園児が制作したデザインを基に 6 色の蛍光石で壁画を制作。「きらら夢トンネル」と命名され幻想的な光景を生み出している。累計で 47 万人利用、観光スポット

●高森湧水トンネル公園（未成線地） 熊本県高森町

高森トンネルの掘削工事中に異常出水で工事中止。全長 2.055m のトンネル内のうち 550m を高森湧水トンネル公園として整備して一般開放している。トンネル内は年間を通して夏は涼しく冬は暖かい。

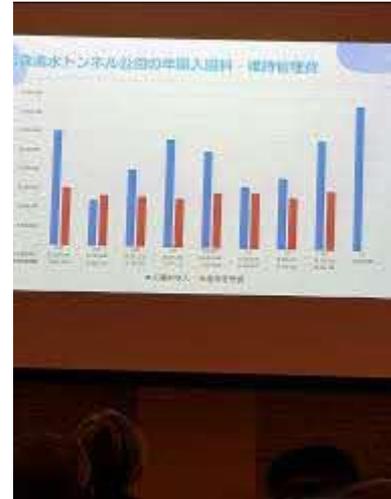
一番奥には光のイリュージョンを楽しむことができる「ウォーターパール」、七夕まつりや、クリスマスファンタジーを開催していて、現在では、年間 11 万人が訪れる観光スポットである。



白川水系最源流 高森湧水トンネル



R5 年度は年間 137,000 人入園者予定



維持管理費（約 2 千万弱）をカバーする
年間入園料（3 千 8 百万）

●高千穂線跡（廃線跡地） 宮崎県日之影町

高千穂鉄道を歴史的な遺産として保全・継承し、各事業に取り組んでおり、無償譲渡を受けた列車 2 両を回収して TR 列車の宿、駅舎の切符売り場を利用した「鉄道資料館」、ホーム敷地内に「天然足湯」、橋梁やレール、枕木の上を歩き、列車に乗った気分で森林ウォークを楽しめる。

3 トークイベント テーマ「鉄道遺産からの挑戦」 登壇者 俳優：六角 精児 氏
甲斐町長

六角氏・・・鉄道ファンで知られている。鉄道とお酒とともに日本を再発見する番組は人気シリーズ。車窓から観る景色が好き、地域の人が好き、地域の話を知ることが好きな俳優。

Q：高千穂の未成線・廃線をどうやってみなさんに知らせ残していけるか？

A：地域の人を楽しんで取り組んでいることが大事で、今までと違う工夫も必要である。チャットを活用して情報発信や、未成線・廃線だけでスタンプラリー（六角ラリー）をして、全国制覇を呼びかけてはどうか？（廃線跡の御朱印を提案された方がおられ、今、取組中とのこと）

甲斐町長

A：鉄道ファンは全国にいる。行政としては残すことにお金がかかるが、鉄道遺産だからこそ、全国から応援してもらえるのではないかと。高千穂はこれから自然環境が注目されるから、それに併せて鉄道公園化構想をもっており、文化財としての取組を試みたい。

4 高千穂の夜神楽（国指定重要無形民俗文化財）拝観

高千穂地方に伝承されている神楽は、天照大神が天の岩戸に隠れられた折に、岩戸の前で天鈿女命が調子面白く舞ったのが始まりとされており、毎年11月の中旬から翌年2月上旬にかけて各村々で33番の夜神楽を実施して、秋の実りに対する感謝と翌年の豊作を祈願するもの。高千穂神楽は365日毎晩20時より高千穂神社で1時間、夜神楽33番の中から代表的な4番を公開している。

（当日は特別に21時から1時間サミット参加者のために舞っていただきました。）



高千穂神社神楽殿 拝観料 1,000円



25番 手力雄の舞

代表的な4番

25番：手力雄の舞（てちからお）

26番：鈿女の舞（うずめ）

27番：戸取りの舞（とと）

15番：御神体の舞（ごしんたい）

5 エクスカーション（高千穂町内）参加

エクスカーションとは、従来の見学会や説明を受けるタイプの視察とは異なり、訪れた場所で案内の解説に耳を傾けながら参加者も意見を交わす「体験型の見学会」。

- 高千穂あまてらす鉄道乗車 施設内見学
- トンネルの駅 施設内見学等
- 高千穂峡

【所感】

第4回 全国未成線・廃線サミット in 高千穂に参加し、多くの関係者や鉄道ファンとの交流を通じて、鉄道の計画があったものの未成線となった鉄道の地元遺産としての想いや、鉄道として運行し、一人ひとりの生活を支えた鉄道会社社員の、廃線となった今でも「全線開通の夢をいつか叶えたい」といった地域住民と関係者のエネルギーに満ちた雰囲気は、地域活性化への原動力となり、共感した全国のファンを呼び寄せる力があると実感した。

トークイベントで六角氏が「人の数だけドラマがあるように、鉄路への想いも住民や地域にとって、これからも続いていくドラマだ。」といった言葉に共感した。つまり残された遺構をどう活かすか？地域にとって新たな観光スポットへの挑戦となると学んだ。

全国からの参加者が交流を深める中で、新たな流れが起きる。そのような良い雰囲気に包まれたサミットであった。

高千穂夜神楽：初めて見る高千穂神楽は、いつになったら転調するのか？盛り上がりの場面がくるのか？と焦らされたまま、舞が終焉を迎える流れで、個人的には微妙な感覚を抱いた。

子どもの時から身近にあった石見神楽が、私自身の根底にあるのを改めて再認識する機会

にもなり、神楽や伝統神事について様々な考え方や守るべき伝統がある上で、その時々々の時代や民衆に求められる姿に変化していく神楽も、また一つの型であるとの思いに至った。

八百万神がおられるように、神楽もまた多岐に渡る型や形があって然るべきかと。故に今日まで脈々と受け継がれている地域風土に根差した神楽と歴史を辿る楽しみが、胸の内にこんこんと湧いてきた。楽しみと共に、浜田市にも石見神楽を客寄せだけでなく、郷土の誇れる歴史文化として、対外的に発信できる場があると良いと実感した。

エクスカージョン：体験型の見学会で廃線となった高千穂あまてらす鉄道に乗車した。乗客を楽しませる仕掛けが、廃線となるも希望を持ち夢を語る場として活用されている事は、跡地を負債とせず資本として活用されている好事例であり学ぶべき姿であった。トンネル跡地を酒造メーカーが焼酎を冷暗所として活用し、熟成させる有効活用への取り組みは、温度湿度が年間を通じて一定に保たれるトンネルを有効活用する良い取り組みだと実感した。

浜田市にも、広浜鉄道跡地にトンネルが多数存在する。整備が必要ならば、臨機応変に対応し、何がこの地で活用できるのかを地域住民と一緒に考え、対外的にアピールすることが遺構の活用となると考えている。